

東京年会における男女共同参画セミナー 「仕事と家庭の両立を目指す男性会員のパネルディスカッション」

2015年3月の第56回学会年会（会場：東京農業大学）において、男女共同参画委員会主催による第4回のランチョンセミナーを開催しました。今回は男女共同参画に対する4名の男性会員の取組みをパネル討論していただきました。会場はほぼ満席となり、非常に活気に満ちたセミナーとなりました。



西村いくこ学会長の挨拶があり（写真）、次に田中寛委員長による「男女共同参画学協会連絡会」の幹事学会の準備状況が手短かに報告されました。パネル討論は、パネリストの自己紹介に続き、「子供を持つに至った経緯・状況」、「パートナーの仕事との両立の仕方」、「家事育児での工夫や公共サービスなどに関して」、「現在の悩み、または過去の経験を振り返って思うこと」という4つの主題に沿って、田中委員長の司会の下、進行しました。

園池公毅会員（早稲田大学・教授）からは、子育て当時の苦労や双方のご両親の協力のあり方など、中西洋一会員（名古屋大学・助教）からは、別居中の妊娠や家事育児を朝と夜にそれぞれ担当を分け仕事と両立させている様子、豊岡公德会員（理化学研究所・上級研究員）からは、公的サポートの活用の様子やプライベートな時間の作り方など、山本治樹会員（大阪大学・学術振興会特別研究員）からは、保育園の保護者会役員をこなすなどの積極的な育児の分担の様子など、それぞれの体験を交えた興味深い話がいただけました。

パネリスト全員が家事育児の負担を重荷と思わず、むしろ仕事の効率を向上させる工夫につながったと肯定的に捉えている姿勢が、全体を通して印象に残りました。今回は大会の運営の都合により45分に短縮したランチョンセミナーとなったため、随分駆け足での進行となり、パネリストの意見だけでなく会場からの質問なども十分に拾えなかったことが少し心残りとなりました。今回3名のパネリストが研究者同士の夫婦の例となったため、異業種で働くパートナーを持った方の話ももっと聞きたかったというコメントもありました。委員会の今後の取り組みに生かしたいと思います。本セミナーは多くの方の協力を得て開催されました。この場をお借りして皆様へ感謝申し上げます。

（JSPF 男女共同参画委員会 酒井 達也）